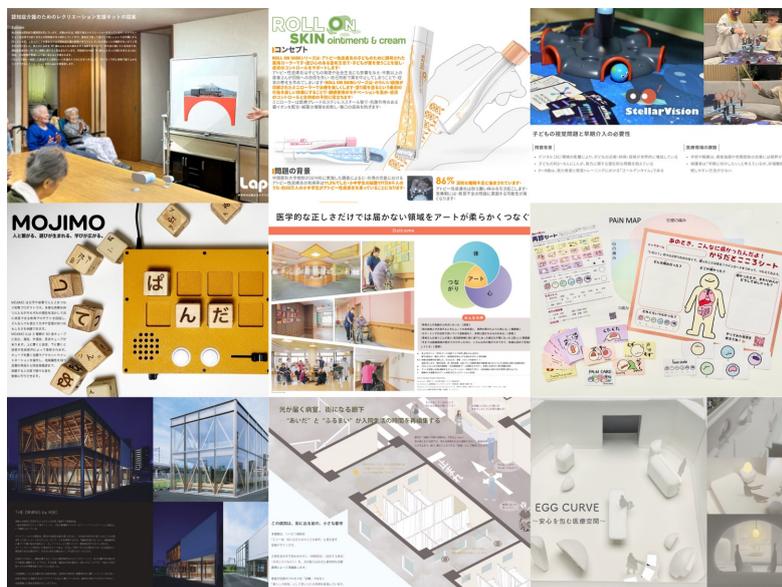


「第11回 医美同源デザインアワード」受賞作品9点が決定！
「入院生活を豊かにするデザイン」をテーマに
大賞受賞者、審査員が登壇するシンポジウムを3月9日（月）に開催。



一般社団法人菊地誠22世紀医美支援事業団（石川県金沢市、理事長：菊地 勤）は、「第11回 医美同源（いびどうげん）デザインアワード」の受賞作品を決定しました。

「入院生活を豊かにするデザイン」をテーマに、過去最多となる国内外130点の応募作品のなかから受賞した「プロダクト部門」「コミュニケーション部門」「空間部門」の3部門9作品を発表いたします。

「医美同源デザインアワード」は「一般社団法人菊地誠22世紀医美支援事業団」が主催し、2025年度で開催11回目。「アートやデザインの視点を取り入れることで、より豊かな入院生活が提案できるのではないか」という視点で開催するデザインアワードです。

今回受賞の9作品から、最終審査を経て1点の「大賞」、2点の「部門別最優秀賞」を選出し、その最終受賞者によるプレゼンテーションや、審査員によるパネルディスカッションを行う「第11回 医美同源シンポジウム」を2026年3月9日（月）に開催します（本リリースの後半に詳細）。

■今後のスケジュール

2026年3月9日（月） 18:30～20:00 第11回 医美同源シンポジウム「入院生活を豊かにするデザイン」
金沢21世紀美術館 シアター21（金沢市広坂1-2-1）

2026年3月11日（水） 14:00～5月下旬まで 受賞9作品の展示 金沢西病院（金沢市駅西本町6-15-41）

■詳細はウェブサイト（Instagram） <https://www.instagram.com/ibidogen/>

<デザインアワードについて>

■開催背景

患者さんやその家族、医師や看護師といった医療従事者が、病院の“暮らし”で求めるものは、今後ますます多様化していくと予想されます。医美同源デザインアワードは、アートやデザインの視点を取り入れることで、医療の現場に、より豊かな暮らし方を提案する場です。

■募集部門

【プロダクト】医療従事者や病院を利用する人が手にしたり目にするプロダクト(衣類、食器、医療具、福祉用具等)のデザイン。

【コミュニケーション】患者・家族・友人・医師や看護師とのコミュニケーションへのデザイン。

【空間】病院を利用する人が過ごす病室や談話室、待合室などの空間デザイン。

■審査基準

以下4つの視点から、審査しています。

【独創性】オリジナリティーに優れこれまでにない創造的なもの。

【ニーズ】実体験やヒアリング調査に基づくニーズがあるもの。

【造型性】造形的に美しいもの。

【現実性】シミュレーションや実証実験により現実性が考慮されているもの。



審査員による審査風景。

プロダクト部門 受賞作品

医療従事者や病院を利用する人が手にしたり目にするプロダクト（衣類、食器、医療具、福祉用具等）のデザイン



タイトル：「Lapo」認知症介護のための
レクリエーション支援キット

所属名：金沢美術工芸大学 デザイン科 製品デザイン専攻
にしだ えみり
氏名：西田 恵美里
所在地：石川県

拍手を合図に進行するレクリエーション支援キットの提案です。アプリと抽象的な形のピースを使用し、手を叩くと花が咲くなど“拍手で反応がある”体験を通じて実施者と利用者一体感を生みます。アプリが内容案を生成する仕組みにより、準備や進行を短縮することで介護者の負担を減らし、よりよい認知症介護環境づくりを手助けします。



タイトル：ROLL ON SKIN

所属名：国立台北教育大学 人文芸術学院
芸術と造形デザイン学科
氏名：グオ・イーロウ
所在地：台湾

アトピー性皮膚炎の子どものために、薬を塗るのが楽しくなるような薬用ローラーの提案です。動物などのかわいい絵柄が印刷されたローラーで軟膏を塗り広げることで、薬を塗る最初の行為を楽しいものとし、継続使用のモチベーションアップを図ります。



タイトル：StellarVision：子どもの斜視を予防する
視覚トレーニング玩具

所属名：国立台北教育大学 人文芸術学院
芸術と造形デザイン学科
氏名：チェン・ズージン
所在地：台湾

デジタル環境の影響により増加している子どもの近視・斜視・弱視を予防する、トレーニングキットの提案です。デジタル機器を介さず、身体的な操作を重視する設計とゲーム感覚で楽しめるトレーニング方法で、無理なく継続でき、斜視・弱視の予防と視覚発達の促進を図ります。

空間部門 受賞作品

病院を利用する人が過ごす病室や談話室、待合室などの空間デザイン



タイトル：THE DINING by KBC

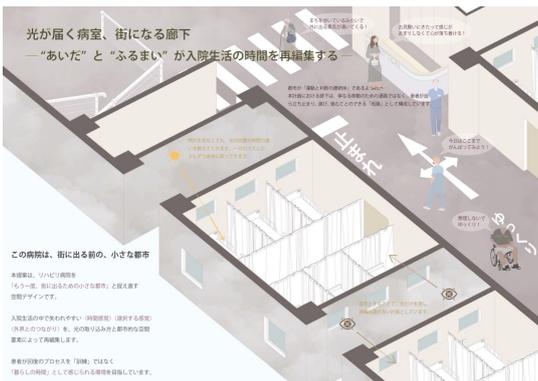
所属名：JOKE.Inc.

わたなべりき

氏名：渡辺 力

所在地：東京都

産婦人科病院に併設の、ダイニングと医療者用オフィスの事例です。カーテンウォールを活用した解放感のある空間にすることで、入院中に外に出ることが少なくなる患者に、外を感じ日の光を浴びる機会を提供しています。



タイトル：光が届く病室、街になる廊下
—“あいだ”と“ふるまい”が入院生活の時間を再編集する—

いな きょうへい

氏名：伊奈 恭平

所在地：東京都

リハビリ病院を「もう一度、街に出るための小さな都市」と捉え、光の取り込み方と都市的な空間要素によって〈時間感覚〉〈選択する感覚〉〈外界とのつながり〉を再編集する設計提案です。回復を訓練ではなく、暮らしの時間として感じられる空間を目指しています。



タイトル：EGG COVER

所属名：医看工芸チームたまご

うみの たまき まつくら ふみえ かさはら たかよし まつだしゅうさく

氏名：海野 玲希、松倉 史恵、笠原 孝義、松田 周作

所在地：大分県

心理的圧迫感を感じやすい無機質な手術室を「たまご」の持つやわらかい曲線を用いた空間にすることで、圧迫感の軽減を狙った提案です。機器や壁、照明など医療空間全体をたまごの曲線から抽出した「エッグカブ」を基準として設計することで、優しく親しみのある環境へ変えていきます。

取材可 <シンポジウムについて>

前ページまでの受賞者のうち大賞1名、部門別最優秀賞2名によるプレゼンテーションと、登壇者によるパネルディスカッションを行う「医美同源シンポジウム」を3月9日（月）に開催します。

第1部では受賞者によるプレゼンテーション、第2部のパネルディスカッションでは、「入院生活を豊かにするデザイン」をテーマに医師とデザインのプロ、建築家など専門家6名による討論を行います。

■シンポジウム詳細

第11回 医美同源シンポジウム「入院生活を豊かにするデザイン」

日時：2026年3月9日（月）18:30～20:00

会場：金沢21世紀美術館 シアター21（石川県金沢市広坂1-2-1）

主催：一般社団法人 菊地誠22世紀医美支援事業団

後援：金沢市、北國新聞社、金沢西病院、認定NPO法人趣都金澤

参加：無料（要申込）※定員70名

申込：<https://x.gd/A6E0i>

WEB：<http://mk22c-ibi.com/>

Instagram：<https://www.instagram.com/ibidogen/>

Facebook：<https://www.facebook.com/ibidogen>



昨年度のシンポジウム、審査員によるパネルディスカッションの様子。

■審査員・登壇者



審査委員長
秋元 雄史
（東京藝術大学名誉教授、
金沢21世紀美術館特任館長）



審査員
荒井 利春
（プロダクトデザイナー、
Arai UD Workshop代表、
金沢美術工芸大学名誉教授）



審査員
浦 淳
（認定NPO法人趣都金澤理事長、
株式会社浦建築研究所代表取締役）



審査員
水口 克夫
（アートディレクター、
Hotchkiss代表取締役社長、
京都芸術大学大学院教授）



審査員
菊地 勤
（医師、
医療法人社団 博友会理事長、
石川県医師会理事）



審査員
藤村 楓
（医療法人社団 博友会
金沢西病院 看護師）

【取材申込先】

取材いただける場合は<3月5日（木）16時まで>に
「貴社名」「氏名」「お電話番号」「メールアドレス」の4点を
メールまたはFAX、お電話などでお知らせください。

申込先・お問い合わせ先：医美同源デザインアワード事務局（株）ノエチカ内
石川県金沢市下本多町六番丁40-1 | E-mail ibidogen@noetica.co.jp
FAX 076-223-3581 | 電話076-223-3580

一般社団法人菊地誠22世紀医美支援事業団

「医美同源デザインアワード&シンポジウム」主催団体。
美術や芸術とのふれあいが人間のもつ生きる力の源であり、また
再生装置としての役割を果たしてくれるという「医美同源」の考
え方に基づき、医療とアートを通じて地域と社会に貢献すること
と、同理念のもと活動するアーティストに対する助成や支援を目的
に2015年7月設立。以降毎年「医美同源デザインアワード&シン
ポジウム」を開催し2025年度で11回目を迎える。
毎年平均して100点程の作品応募と、70-80名程のシンポジウム来
場者を迎えて開催している。



金沢西病院

「医美同源デザインアワード&シンポジウム」の後援団体で
あり、2026年3月以降に受賞作品の展示を行う「医療法人社団
博友会 金沢西病院」は、医療とアートを「人間が生きる源
＝医美同源（いびどうげん）」とする考えに賛同し、院内でも
積極的に融合に取り組む。地元の作家とコラボレーションした
アートワークを各階に設置、2025年には新作も加わり、多数の
作品を院内に常設。



（左）山本基《時の波音》（ヨミ：トキノナミオト）2025年
（右）竹村友里《陽が昇る海》2020年